

---

---

所 属 : 国際学部

職・氏名 : 准教授 大場 静枝

研究キーワード : フランス、ブルターニュ、文学、地域文化、少数言語復興、  
言語政策、家族政策

---

---

#### ■研究テーマ

##### ① テーマ：フランスの言語政策と地域語教育運動に関する研究

概要：フランスの言語政策史や現在のフランス及びEUの言語政策と関連づけて、地域語の危機的状況と復興運動の動態を研究しています。特に、地域語教育のカリキュラムとその効果の検証を通して地域語の復興運動の実効性を検証することを目指しています。具体的には、フランス北西部の地域語（ブルトン語）を媒介語として自主教育を行っているフリースクール「スクール・ディワン」を主な研究対象としています。

##### ② テーマ：18世紀フランス文学における自伝的作品の研究

概要：フランス革命期の作家レチフ・ド・ラ・ブルトンヌの自伝的作品における自己と他者の関係、とりわけ最も身近な他者である父との関係、及び「父」の表象とレチフの文学創造との重層性等を中心テーマに研究を進めています。また、18世紀の文学作品や研究書の翻訳、研究を通して、レチフ・ド・ラ・ブルトンヌを始め、まだ一般に知られていない作家や作品、及びその研究を広く日本に紹介しています。

##### ③ テーマ：フランスの家族政策と保育保障に関する調査・分析

概要：フランスは、先進諸国のなかで少子化を克服した数少ない国の一つです。昨今では、フランスの家族政策と政策運営のあり方が世界の注目を集めています。少子化問題で悩む我が国でも、フランスの家族政策は「フランスモデル」として研究の対象になっています。フランスの子育てを取り巻く環境とフランスの家族政策、なかでも、近年、フランスが最も力を傾注している保育政策について調査・分析をしています。

#### ■研究テーマの応用例

フランスの言語政策や家族政策、あるいはフランスの文化一般に興味・関心をもっている地方公共団体、教育機関、民間団体、企業に対して、講座や講演、文化交流事業の面で協力ができます。

#### ■主な著書、発表論文

「語り継がれる民族の記憶—『バルザス＝ブレイス』をめぐる—」、滝澤雅彦・柑本英雄編著『祈りと再生のコスモロジー—比較基層文化論序説』、成文堂、2016年。

「ユートピアを希求する旅—レチフとヴォルテールが追い求めた寛容の精神」、植田祐次編著『ヴォルテールを学ぶ人のために』、世界思想社、2012年。

「フランス—多様な保育サービスに見る子育ての社会化」、椋野美智子・藪長千乃編著『世界の保育保障—幼保一体改革への示唆』、法律文化社、2012年。

「抗う人々の歴史—フランス ブルターニュ半島の闘争」、山内淳・小辻梅子編著『二つのケルト—その個別性と普遍性』、世界思想社、2011年。

「フランスの家族政策の現在—仕事と家庭の両立を実現する社会へ」、岡澤憲英・小淵優子編著『少子化政策の新しい挑戦—各国の取組みを通して』、中央法規出版、2010年。

「フランスの言語政策と英語熱」、矢野安剛・池田雅之編著『英語世界のことばと文化』、成文堂、2008年。

■主な特許、芸術作品等

特にありません。

■想定される連携先

公的研究機関・教育機関・地方公共団体・民間団体など。